

●シリーズ●わが町の文化財へ45

町指定重要文化財 吉祥寺の観音堂

昭和46年2月16日指定

鳳林山吉祥寺は、当山古文書『鳳林山実録』元文3（一七三八）年によると、治承四（一一八〇）年奈良興福寺吉祥院円覚和尚により、本町長田篠村谷に創建されたと記されています。その後、歳月を経て、享保十七（一七三二）年、松本惣右衛門智陳によつて現在地に移築されました。

それまで、この地は小谷山という古寺跡であり、すでに薬師堂や弥陀堂・松桂亭などの堂宇が存在していたと伝えられています（今は弥陀堂や松桂亭はありません）。

『鳳林山実録』によると、「薬師堂二宇、二間四面、天井の巻龍は鈴木左門筆、本尊薬師は安阿弥の作で8寸、そのほか十二神将は享保五（一七二〇）年、洛陽の仏師井上右近（出家して浄安）これを作る。この堂の初建立は知れず。再建立（これが現在のもの）は元禄8（一六九五）年、松本弥三右衛門義智これを調える。」とあります。

「年旧りて尊像損傷す」の記録もあり、現在は本尊の薬師如来はありませんが、眷族である十二神将、その他三十三観音は健在です。堂内片隅に「薬師瑠璃光如来像」が祀られています。近くの廃寺能仁寺の本尊であると推定されています。堂宇は、方二一間、瓦葺、唐戸廻縁で、数度の修復の跡が見られ、古い歴史を物語っています。



●シリーズ●わが町の文化財へ46

世羅町指定重要文化財 月ヶ平石造地藏菩薩像

昭和62年11月11日指定

田打の月ヶ平薬師堂の北、茶畑の中に長さ2.02 m、高さ0.7 mの石積の基壇があり、この上に花崗岩製の石仏があります。

地上高1.02 m、幅0.56 m、厚さ0.6 m、像は右手に錫杖、

左手に宝珠を持った地藏菩薩の坐像で、像高0.4 m、直径0.2 m

の円形光背と蓮華座が彫られています。また、像の左右及び下部に次のような銘文が刻まれています。「高野山 小田原實相院 慶長二丁酉（一五九七）年「七月六日」福寿坊□福阿彌

陀佛」。誰が、何のために建てたか伝承はありませんが、銘文の判読できる石仏として貴重です。なお、近くの薬師堂境内には、室町時代の五輪塔が十数基残存しています。

本塔の造立を考えるうえで、世羅町大字徳市の福寿坊（福地坊）があります。この寺は徳市八幡神社（磯河内八幡宮）の宮僧寺であったと推定され、社家の福永家には、かつてたくさん古い位牌を伝えていました。

現在伝わる位牌の中に、「慶長三年戊戌十二月廿八日」「引權少僧都海蔵和尚」があり、月ヶ平の「福寿坊□福阿彌陀仏」との関連も考えられます。

※□は判読できない文字を示します。

